



川とおじいちゃん

栃木県 湯西川

栃木県 二宮町立物部小学校2年 桐越 真紀

ひとこと この川は、温泉が湧き出ているところを撮影しました。おじいちゃんの笑顔が撮りたくて、シャッターを押したところ、上手に撮ることができました。

先生から 優しいおじいちゃんを尊敬のまなざしで見つめる作者の顔が浮かんできます。おじいちゃんが透明で湯加減のよい足湯に足をつける姿に癒やされます。夏を感じさせる麦わら帽子にまくり上げたズボンがほほえましく、自然な感じの写真に仕上がっています。(丹地先生)



湯西川

湯西川は、利根川水系の一級河川です。山深くにある沢や小川がいくつも集まって流れ、五十里湖で男鹿川と合流する長さ約22.5kmの川。その水は、男鹿川から鬼怒川に流れ込み、さらには大河、利根川に合流していきます。

1 平家の里

平家の落人伝説にもとづいて、往時の様子を再現した平家の村。茅葺き屋根の民家が建ち並び、当時の落人の生活風景を知ることができます。さらに落人達が食べたと言われる、おモチを味わえる場所もあります。

2 湯殿山神社

湯西川で温泉が発見された時、湯の守り神として出羽三山の羽黒山から土を移して建立されました。毎年、湯殿山神社から平家の里まで、鎧武将、お姫様、山伏などに扮して練り歩く平家絵巻行列が開催されます。



川辺でなごむ人達

神奈川県 多摩川

神奈川県 川崎市立生田中学校2年 内田 翠

ひとこと 暑い日に、大きな木の下で涼んでいる人がいたので写真を撮ってみました。

先生から 人物を対称として、中央の木を境にシンメトリックに撮影しています。被写体の構図を考えてとらえている点に能力を感じます。涼しげで、穏やかで、休んでいる人に邪魔にならない距離間をおき、上手に撮った作品です。(大西先生)



多摩川

山梨県笠取山に始まり、山梨、東京、神奈川県を流れ、羽田空港の脇で東京湾に注ぐ一級河川です。全長は約138km、流域面積はおよそ1,240km²。流域人口は425万人にのぼり、東京、川崎の人口密集地帯を流れる都会の川です。

1 多摩水道橋

狛江市和泉と川崎市登戸を結ぶ長さ約360mの美しい2本のアーチ橋で、橋の下には直径1.8mの水道管が収容されています。名前は神奈川県の水を東京都に分水するために昭和28年に造られた水道橋に由来します。

2 生田緑地

多摩丘陵の一角にある川崎市最大級の緑の宝庫で、近くには生田緑地ばら苑もあります。緑地内には日本民家園、岡本太郎美術館、伝統工芸館、プラネタリウム、枳形山展望台、菖蒲園などの施設が設置されています。



時間(とき)を忘れて

山梨県 芦安の川原

山梨県 県立甲府城西高等学校1年 山本 祐太郎

ひとこと 夕暮れ間近の川は、キラキラしていてとてもきれいでした。いつまでも遊んでいた弟やいとこ達を撮りました。

先生から 高校生の作品の中でずば抜けた技術力があり、高い評価を与えられる。キラキラとした光の具合も、全体的な構図もすばらしく、跳躍する子どもたちの難しい動きを上手にとらえている。カーブを描いて手前に川幅を広く出しているのもいい。(平井先生)



野呂川

芦安の川原の西側を流れます。日本第2位の標高を誇る南アルプスの最高峰北岳の西に源を発し、間ノ岳からは右俣沢を迎えます。下流約25km地点の荒川との出会いで早川と名を変えた後、やがて富士川に注ぎます。

1 白鳳溪谷

早川上流、野呂川溪谷を称して白鳳溪谷と呼んでいます。南アルプスの盟主、北岳に近く、溪谷に沿って南アルプス林道が走っています。鳳凰山に連なるせん雲花こう岩から成る山地があり、10月中旬～11月上旬まで紅葉が楽しめます。

2 芦安温泉

南アルプスの玄関口となる芦安にある温泉で、周囲には原生林が茂り、高山植物も見られます。山間に湧く温泉として雄大な自然環境の中でゆったりとした時を過ごせます。また、白根三山や鳳凰三山を目指す登山客の利用が多いのも特徴です。



第27回 川の写真コンクール

このコンクールは河川愛護思想の普及と啓発をはかるため、首都圏及びその周辺（関東地方整備局管内）に居住する小学生、中学生及び高校生を対象に、川の写真を募集しました。また、応募作品の中から優秀作品の展示会を開催して、小・中・高校生のみなさんに河川に対する理解と関心を高めてもらおうとするものです。

第27回「川の写真コンクール」には、小学校の部、中学校の部、高等学校の部を合わせて過去最高の8,478点の応募をいただきました。

今回のコンクールの実施要項

テ ー マ 川の風景（湖沼を含む）

募集期間 平成19年7月1日～9月16日

審 査 員 大西みつぐ 丹地敏明 平井實

主 催 国土交通省関東地方整備局・財団法人河川環境管理財団

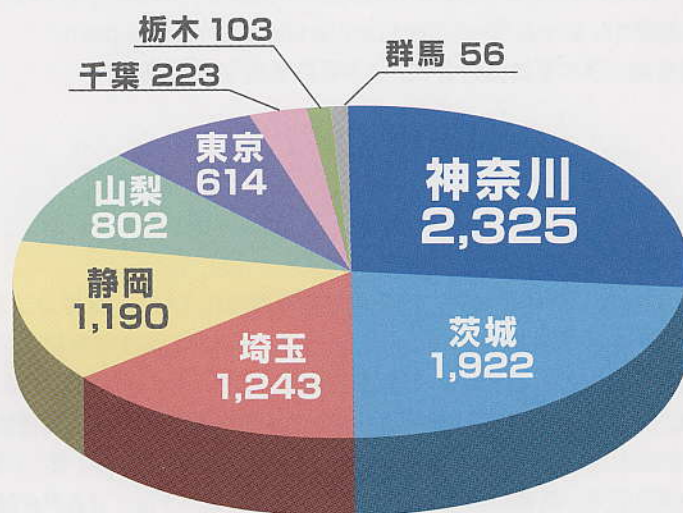
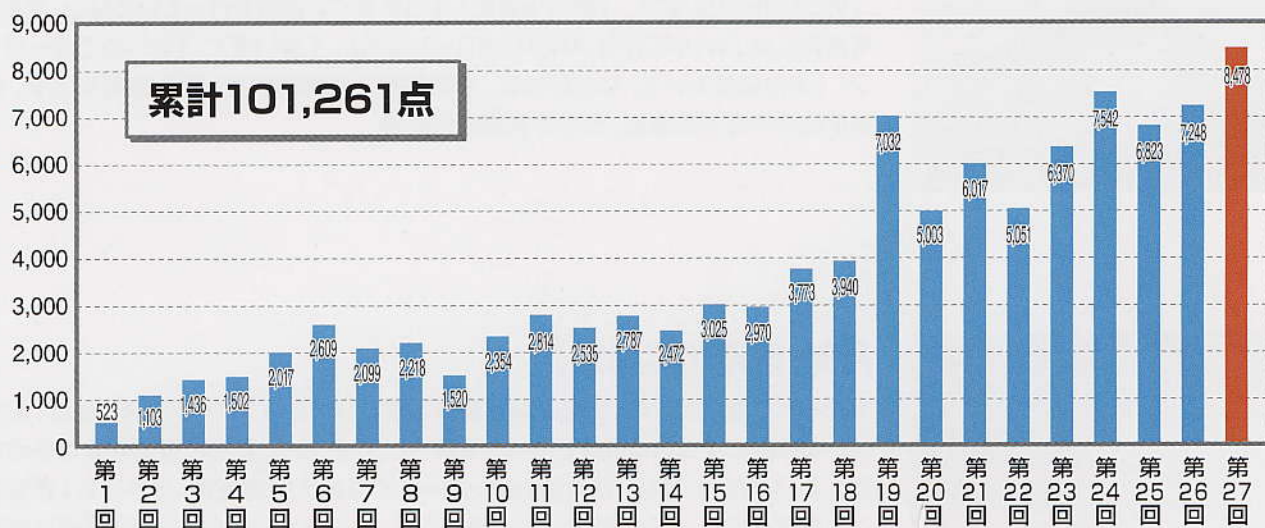
後 援 日本放送協会（**NHK**）・読売新聞東京本社
茨城県教育委員会・栃木県教育委員会・群馬県教育委員会
埼玉県教育委員会・千葉県教育委員会・東京都教育委員会
山梨県教育委員会・神奈川県教育委員会・静岡県教育委員会
全国小中学校環境教育研究会

協 賛 **Kodak**

過去最高の応募数を記録

山梨県、静岡県を含む関東地方1都8県の小・中・高校生のみさんから募集した「川の写真コンクール」。27回目を迎えた今回の応募作品数は8,478点にのぼり、過去最高を記録しました。第1回からの累計も10万点を超え、歴史を重ねるごとに同コンクールはさらに広がりを見せています。

※第25回は記念コンクールとして開催され、初めて実施した一般の部の応募点数が含まれています。



トップは神奈川県

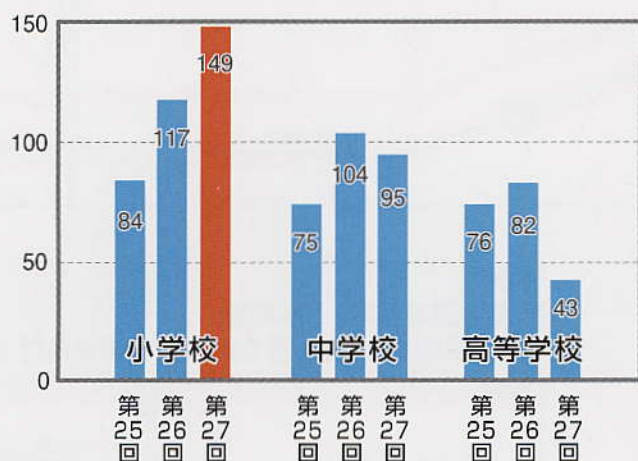
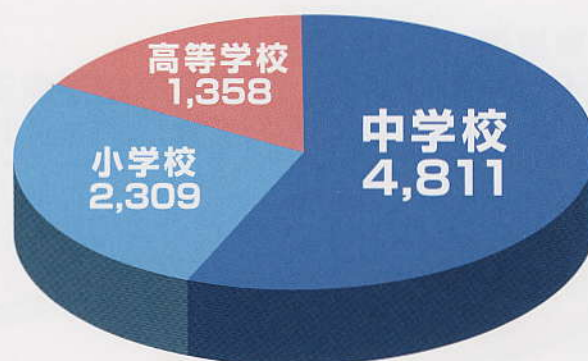
1都8県の中で、応募作品が最も多かったのは神奈川県の2,325点。全体の3割近くを占めました。第2位は茨城県の1,922点、第3位は埼玉県の1,243点と続き、上位3県で全体の65%に上りました。

ちなみに、昨年のトップは茨城県の2,267点、2位は今回1位の神奈川県で1,456点、山梨県が813点で3位でした。

データ集

応募数は中学生が一番

応募作品のうち、部門別では中学生が断トツ。学校を挙げて取り組んでいる中学校もあり、1校で1,000点以上応募してくれた学校もありました。今回は小学生もがんばり、前年に比べて約700点も増えました。



学校数は小学校が増加

学校数の推移をみると、小学校が前年より27%増の149校となり、応募人数も480人増えました。中学校は前年より9校少ない95校となりましたが、応募人数は116人増えています。高等学校は学校数で39校、応募人数で23人減りましたが、応募点数は1,300点台を維持しました。

上位入賞は女子が優位

金、銀、銅の上位入賞は小、中、高校の各部門で9人ずつ。このうち、小学校の部は女子が圧倒的に多く、男子は1人だけでした。中学生も4対5で女子が優位。高校では5対4と男子が健闘しましたが、全体では女子17人、男子10人となりました。

デジタルカメラが主流

撮影カメラのうちわけをみると、金、銀、銅の上位入賞者27人のうち、デジタルカメラで撮影した児童、生徒は23人、フィルムカメラの使用は4人だけでした。デジタルカメラが圧倒的な勢いをみせており、フィルムカメラにこだわる写真愛好家の奮闘を期待したいところです。